

## 第16回日本臨床看護マネジメント学会学術研究大会 鼎談

コーディネータ 山元 恵子（富山県福祉医療短期大学 看護学科長）

### 【主旨】

今回、お二人の看護のトップマネージャと当学会のマネジメント研修の講師の高田先生の三人を鼎談に選んだ理由は、私から見ての三人の共通点はいつも輝きながら、看護界で活躍していることです。つまり自分の上司だったら、この人ならどんなことを考えて行動するだろうかとモデルにしたい三人の本音トークを聴きたくて、私の身近でいながら中々ゆっくり人材育成や組織作りの極意を聴けずにはいました。この機会を活かして全国の皆さんと共有したいと考え企画しました。

看護のトップマネージャとなった時にまず手始めにやるべきことは二つあると私は考えています。1つは、組織全体としてやりたいこと、やるべき課題が迫っている、ある程度やるべきことが分かっているが、これまで誰もそのことをやってこれずにいたことを就任時に手掛けて成功に導く。2つ目には組織全体が気づいていない、外から入ってみると意外な事実や違和感のある課題に気付かされ、これは大変と中で働いている人達や仲間作りからスタートし、新しい視点やアイデアを提案しながら人材育成と組織変革を一緒に進め成功を遂げること。

いずれの場合も変革を進めそれを持続させていくには一人ではできませんしエネルギーを要することです。しかし看護部のトップとして任を担っていくからには責任とやりがいのある素晴らしい仕事には間違いありません。今回は、様々な立場で聞かせていただくので、部下の手本として働き続けるためにはどのようなことを日頃心がけ、それを組織（上司）にも認めさせ信用させるためにはどんなことが必要か？そして成功したのか等、更に次の課題へと前進する看護管理者のビジネスモデルを作り上げてきたのかのマネジメント技を是非とも聞きたいと思います。

まずは、会場でマネジメントの先輩や仲間たちとの出会いを楽しんで更に3人のトークから明日からのマネジメントのヒントをもらい、現場の看護管理は最高に楽しい、次の職位にチャレンジしたい、トップマネージャを目指したいという前向きな仲間が一人でも増える鼎談にしてゆきたいと考えています。